

フルフェイスの最高峰 Super cLc RX-7登場!

RX-7は、日本の高級フルフェイスの歴史です。1969年に、日本初のフルフェイス、しかも世界に通用する安全性能と質感を携えた高級品として登場した由緒あるモデル名です。初代RX-7の発売価格が2万5000円という、当時の大学卒の初任給に匹敵するものであることにもその意気込みが感じられます。以来、フルフェイスの最高峰として、最も強く、最も軽く、そして最も装着感が良い理想のヘルメットを追い求め、cLc、Super cLc等の新しい技術を生み出しながら、モデルチェンジを繰り返してきました。そのRX-7が、5年ぶりにフルモデルチェンジします。

今回のモデルチェンジのポイントは、やはり安全性能のさらなる向上です。ARAIは、レース使用を前提としたスネル規格のフルフェイスでは全て、スネルよりも対衝撃性能において5%程厳しい独自のARAI規格を設け、それを社内規格として適用しています。昨年、スネルが90年より95年へと改正され、前頭



部横から側頭部、後頭部横にかけての要求が遥かに厳しくなったのに伴い、ARAI規格も見直され、そのスネルよりもさらに厳しい性能を求めることになりました。90年規格を前提として強さと軽さを誇っていた前モデルのRX-7Rといえども、大幅な重量増は避けられない程の厳しさです。その厳しさにチャレンジし、RX-7R並の重量に押さえることが新しいRX-7を開発するにあたっての目標となったのです。

その軽さへの追及は、まず帽体形状から見直されました。より人間の頭に近く、平に近い面のないRの連続した形状は、剛性をも高めることが出来ます。そこで、ARAIの中でも



- モデル名: Super cLc RX-7
- 規格: SNELL95 JIS-C種
- 色: 白、黒
- サイズ: (53-54), (55-56), (57-58), (59-60), (61-62)
- 標準小売価格: ¥43,000

最も人間の頭に近い形状をもつアストロE系の帽体を採用することになりました。その製法も、F-1で使用しているSuper cLc構造をさらに前進させ、素材を厳選しF-1用よりさらに丁寧な成型方法により作り上げることにしました。しかし厳しいARAI規格の下では、それだけではRX-7R並の重量には到達しません。

そこで最後の方法として、探し当てたのが、帽体製造部門だけでなく、全行程で一個一個時間をかけ、手作りで作り上げることに、無駄な重量をもたない製造方法を貫き通すことでした。例えば、塗装工程でも、パテ、サフェーサー、水研ぎ、上拭き全ての工程で、デジタルの重量計を据え置き、一つずつ重量をチェックし、1グラムの重量も無駄なく管理しています。何度も何度も研ぎ直し、通常の塗装重量よりも10グラムから15グラム程の軽量化を成しているのです。

こうして、完成されるSuper cLc RX-7は、安全性能を向上させながらも、RX-7Rに匹敵するほどの軽量化を達成しています。そして、手作り仕上げの高級品としての雰囲気、内装などにも強く醸し出されています。デミストシールドなど機能にも抜かりはありませ



ん。但し、唯一の難点は、生産効率が極端に悪くなってしまったことです。一日あたりの生産数は、僅か10数個でしかありません。それだけに価値ある逸品であるのかも知れません。ARAIの基本技術を集大成させた高級品の登場です。